

## チーム一丸となって つかんだ16年振りの 優勝

「国体の北海道予選には、ここ数年、連続で出場しています。毎年、優勝候補として注目されてきましたが、なかなか優勝することができませんでした。今年は、試合前の練習でも、選手の動きが軽快で、声も良く出ていて、選手の意気込みが伝わってきました」と大会を振り返る高嶋さん。

全道から26チームが出場した北海道体育大会兼国民体育大会軟式野球北海道大会で三愛病院は2回戦から登場。危なげなく勝ち進み、決勝で対戦したのは苫小牧の強豪チーム。

「少ないチャンスを得点に結びつけ、勝ち進むことができました。技術的にはどのチームも差がありません。あとは選手の気迫しかないと思いますね。久し振りの優勝でしたから本当にうれしかったです」。

三愛病院野球部は創部以来、全道大会出場の常連チームで、道内でもトップレベル。全国大会にも、天皇賜杯全日本軟式野球大会をはじめ、今回の国体を含め通算9回目の出場。

「仕事と両立させながら野球ができるのも、職場の理解があつてこそ。監督をはじめ、チームのメンバーは本当に感謝をしますよ」。



▲優勝した『医療法人三愛病院野球部』

## 国体では北海道代表として 恥ずかしくない 試合を

10月13日から、宮城県で開催される国体に向け高嶋さんは、「うちのチームは守りのチームですから、相手の得点を最小限に抑えよう、バッテリをさらに強化するとともに、内外野の連携プレーを中心とした守備練習を徹底的に積んで、本番に臨みたいと思っています。私の立場は、監督の指示を的確に選手に伝えること。試合では選手が伸び伸びとプレーできるような気配をしたいと思います。国体での目標は、ずばり優勝。私たちが頑張ることによって、職場や市民への恩返しができると思います」と意気込みを話してくれました。



昭和46年、室蘭市生まれ。30歳。

医療法人社団千寿会老人保健施設「グリーンコート三愛」勤務。社会福祉主事。職場ではデイケア担当。高校時代は室蘭大谷高校で甲子園を目指していた元高校球児。



KIRARI

たか がき かつ や  
**高嶋活哉**さん(登別本町)

8月に稚内市で開催された『平成13年度北海道体育大会兼第56回国民体育大会軟式野球(一般B)北海道大会』に出場した室蘭地区代表の『医療法人三愛病院野球部』が、見事2度目の優勝を果たし、国民体育大会への切符を手に入れました。主将としてチームをリードしてきた高嶋さんに、全道大会の様子や国体への抱負などを聞きました。

**国民体育大会では、  
ずばり優勝をねらいます。**

